

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270135140		
法人名	社会福祉法人 長崎厚生福祉団		
事業所名	グループホーム 鶴舞苑Ⅱ		
所在地	長崎市大谷町418-1		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者と一緒に日曜日に週1回のおやつ作りを行っています。ご利用者に大変喜んで頂いておりますので継続しています。それ以外の日にはリビング中央にテーブルをご用意し、お話をしながらお茶を楽しんでいただいております。今ではご利用者同士の触れ合いの場となっており、懐かしい音楽を聴きながら昔話に花が咲いているようです。縁側で日向ぼっこをしているご近所さん同士が楽しい時間を過ごしていただければという思いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は同法人の高齢者福祉の他施設が立ち並ぶ一角に位置している。敷地内の施設利用者を合わせると600人を超え、1ユニットの事業所であるものの多様な交流が得られる環境となっている。家族の要望をきめ細やかにしっかりと傾聴し、記録して介護計画に反映する仕組みがあり、信頼を得ている。職員は利用者の個性やできることを活かした支援に努めており、見守る支援を実践している。おやつ時間は利用者同士のコミュニケーションに繋がっており、一日にリズムとなり、メリハリがついている。他施設との併設ではあるもののグループホームの良さである食事づくりは独自で行っており、利用者の楽しみとなっている。管理者、職員のケアの質の高さが利用者の笑顔や自然な動作につながっており、「笑い声のきこえる、ぬくもりのある我が家を・・・」という理念そのものの事業所であることがわかる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさ、大切にしたいものは何かを職員全員で話し合い作り上げ、理念に込めた思いをいつも忘れず、ご利用者とご一緒に楽しむ姿勢と笑顔を日々大切にしている。	理念は事業所入口に掲示し、職員に周知している。職員は利用者の笑顔が出るような声かけや事業優先ではなく楽しみながら支援を行うことにより「笑い声のきこえる、ぬくもりのある我が家」という理念を日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生や専門学生に至るまで様々な方がボランティア活動に訪れて下さったり、同施設内のケアハウスに月1回セブンイレブンの出店に出かけ地域の方々との交流に繋がっている。	事業所は近隣住宅街から離れた立地ではあるが、敷地内に同一法人の多様な事業所があり600人以上の利用者がいるため全体を一つのコミュニティと捉え交流を図っている。また、中学生が福祉体験学習に来たり、敬老会に保育園児の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習の受け入れにより、ご利用者と関わって頂いたり、見学者の方へも認知症を理解していただけるよう疑問等にもお答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見を伺い、質の向上に努めている。	2ヶ月に1回、利用者を含む規定のメンバーで開催されている。事業所の現状や行事予定、職員の異動、外部評価など報告し参加者の意見を聞いている。参加者のアドバイスで運営推進会議を写真に撮り、通信に掲載するなど意見を反映しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じてその都度相談させていただいている。	毎年、介護相談員2名を受け入れている。利用者によっては担当課からの訪問があり、不明な点があれば電話でも日頃から連絡を取っている。市からは研修の知らせがあり、また運営推進会議への出席もあるなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で学び、拘束は行っておらず、鍵もかけないで自由に過ごしていただいている。	身体拘束をしないケアは当たり前のこととして職員全員が理解している。研修も定期的に行われ、拘束性のある言葉についても注意がはられ、気づきがあれば管理者が指導している。現在、身体拘束はゼロである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修により職員の意識を高め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修で学び、必要に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入所時に重要事項説明書により時間をかけて説明するとともに、疑問が生じた際にはその都度お答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションや話しやすい雰囲気作り心がけ、ご利用者の言葉やご本人から汲み取り、ご家族からのご要望の申し出があった際には職員全体で話し合い改善に努めている。	利用者の要望は日々の会話の中で、家族については面会時や電話で聞き取り、申し送りや要望書に記録し、その後の対応も記載している。生け花をさせてほしいという家族の要望から、毎週花を活ける利用者もいる。ただし、苦情解決の外部窓口が契約時の書類に明記されていない。	苦情受付窓口は内部に設置するだけでなく、家族が意見や苦情を直接外部に表せることが望ましい。外部受付窓口を本人や家族に知らせると共に、契約時書類に明記するなど取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティングや毎日のカンファレンスの中でも常に職員に意見を聞くように心がけている。	職員は月1回のミーティング時のみならず、いつでも要望を管理者に言いやすい環境である。ボトルの持ち運び用かごの購入や、介護用ベッドの調達など多くの提案が実現されている。年2回の個人面談があり、勤務体制などにも反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関しては研修を行い、職員一人ひとりがご利用者と楽しく過ごせるような行事を考え向上心をもって働けるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に必要な研修が受けられるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者からの研修や見学の受け入れは行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームへは出来る限りご来苑して頂きホームの雰囲気を見て頂いたり、入院先あるいは自宅へ訪問し時間をかけてお話をお伺いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じてご家族には何度でも来苑頂き、不安や疑問がなくなるまでゆっくり時間をかけてお話を伺い、また電話での質問等にもお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族の状況に応じ、介護保険制度、他施設や在宅サービスの内容とご利用方法も説明している。またご質問にも何度でもお答えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者とは日々の生活の中でご相談したり、アイデアを出し合いながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いやご事情を理解しながら協力していただけるようお願いし、またご要望に備えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出かけて行ったり、逢いたい人には逢えるように支援している。	馴染みの美容師が事業所を訪問してパーマやセットなど整容したり、利用者の教え子や近所の方などの訪問は多い。家族の協力で誕生祝、墓参り、結婚式などに行く利用者もいる。電話や手紙の支援もし、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が自然にお互いのお手伝いをして下さるので安全面に配慮しながらお任せしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退所された方のご家族にも来苑していただけることが多く、ご利用者のご様子を伺える機会もあり、その時には介護に対する悩みやご質問にもお答えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活の中での言葉やご様子に心を配り毎日のカンファレンスの中でも確認を行い、ミーティングにおいても職員全員で話し合っている。	利用者の小さな動きやしぐさから意向を察知し、利用者ができること、行いたいことを自由に行う支援につなげている。手作業のゆっくりした時間に要望を聞き取ったり、生活歴やケアチェック表なども活用し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用により把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートの活用やバイタルチェック、コミュニケーション、健康体操、ビーチバレー遊び、1日の水分量を設定し健康管理に努め毎日のカンファレンス等により職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の中でのご本人の言葉やご家族からのご要望、3ヶ月に1回のモニタリングを踏まえてカンファレンスを行い作成している。	センター方式で情報を集め、利用者や家族の意見を聞き介護計画を作成している。計画に沿った実践項目を作成、ケアチェック表に日々の実践状況を記録し、評価、モニタリングを経て3ヶ月に1回の見直しにつなげている。入退院時など変化がある時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日のご様子や実際のご利用者が話された言葉などを、ケアチェック表に記録し毎週評価を行いケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてショートステイなど利用して頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望に合わせて嘱託医とかかりつけ医の連携をはかりながら医療的支援を行っている。	利用開始時に利用者・家族に説明し、同意を得てかかりつけ医を法人嘱託医に変更している。他科や他病院受診時は職員が同行し、家族に報告している。内科は週1回、心療内科は2週間に1回往診がある。また、24時間対応可能な医療連携体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の往診の他、日頃よりご利用者一人ひとりの健康状態を報告し、連携をとって受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会し、ご利用者、ご家族の状況をお伺いすると共にソーシャルワーカーとの情報交換や医師、看護師との相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃よりご利用者やご家族の意向を確認しながら状態が変化するたびに十分話し合い、その都度ご家族の意向を確認し事業所での出来ること、出来ないこともお伝えし話し合い、職員全員でその方針を共有している。	事業所として看取りはしない方針であることを指針として文書化しており利用開始時に説明し、了解を得ている。家族とは連絡を密にし、利用者の状況に変化がある度に詳しく説明し、家族の意向を聞き、事業所としてのできる限りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、研修より学び備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。	今年度は1回は夜間想定で消防署立ち合いのもと実施し、1回は地震想定で計2回の避難訓練を実施している。職員全員消火器を扱うことができる。地域の消防団とは有事の際の協力契約がある。水、食料、毛布などの備蓄は法人全体で用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一つひとつの言葉に共感、受容しご利用者の気持ちを大切にし対応により傷つけないように努めている。	職員は「です、ます」調の柔らかい口調での話しかけや、トイレ誘導は小さな声で、着替え時はドアを閉めるなど利用者の人格を尊重した対応に努めている。個人情報とは所定の場所に管理され、職員は守秘義務の誓約書を提出している。ただし、利用者や家族から写真掲載の同意を取っていない。	事業所の通信には利用者の笑顔がたくさん掲載されていることもあり、今後、利用者や家族から写真掲載の同意書を得ることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りに心がけ、十分に時間をかけてしっかりと想いを受け止め選択や決断への支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は決めているが、ご利用者の気分に合わせてその時に大切にすべきことを最優先しながら、一緒に生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など楽しみながら一緒に選び、カット、毛染めもご本人の好みに合わせて楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理、盛り付け、片付けに至るまで、ご利用者お一人おひとりが出来る分野を分担して行ったださっている。	献立は利用者の好みも加味し職員で立て、利用者は下ごしらえや準備などに参加している。おやつ時は、利用者同士が会話を楽しめるよう幅の狭いテーブルをセッティングするなど工夫している。外食では各自好みのものを注文し、誕生日には出前を取るなど食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は1日を通して記録を行っている、また1日の水分摂取量(1000cc)を決め摂取量の把握もしている。ご利用者の状態に合わせて調理の工夫(ミキサー食)や嗜好に合わせて献立を立てるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれのご利用者に必要な声かけやお手伝い準備などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式により排泄パターンや習慣を把握し声かけや必要に応じて支援を行っている。	職員は排泄の自立の重要性を理解しており、利用者毎の排泄パターンの把握や素振りで尿意を察知し、トイレ誘導している。現在昼間は布パンツの利用者が5名いる。一人でトイレに行く利用者もさりげなく見守り、必要に応じて衣類を整えるなど気配りし、きめ細かい支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、健康体操や施設内散歩を行ったり、水分摂取量が低下しないように努め、献立に食物繊維を毎日取り入れたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにご用意し、ご希望や体調に合わせてご自由に入浴していただいている。	基本は週2回の入浴日が決まっているが、それ以外でも希望に沿っている。湯温は職員が確認した上で利用者自身で確認してもらい、本人の好みの温度にしている。ゆず湯、しょうぶ湯などの季節の風呂や入浴剤で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも自室で過ごされる時間は大切にいただいている、また習慣を変えることなく、好きな時間に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者お一人おひとりの薬のしおりをファイルに閉じて職員全員がいつでも確認できるようにしている。服薬時は常時確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合った場所をご用意している、またご利用者の助け合いの中での自然な役割分担を安全に行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物などの日常的な外出のほかに、ご利用者のご希望に合わせて出かけられるように年間を通して計画を立て支援している、また月1回同施設内(ケアハウス)の出張販売にも出かけている。	週1度、順に車で職員と出かけるスーパーへの買い物や、同一敷地内の他施設の売店への買い物は利用者の大きな楽しみとなっている。気候のいい時は外気浴に出たり、花の季節にはドライブにも出かけている。家族の協力で外出する利用者も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と話し合い、お財布をお持ちの方もいらっしゃる。ご自分でお財布を持たれていない方も買い物にご一緒した際は職員がレジでお金をお渡しして、ご自分でお支払いしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室には電話が備えてあり、ご自分でかけられている。必要な時にはお手伝いし、お手紙なども一緒に送って差し上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光やテレビの音の調整はもちろん職員も環境であることを理解し話し声などにも気をつけている。季節に合わせて花や飾り付けを行っている。	利用者が活ける生花に迎えられ玄関を入ると、明るいリビングが広がり、利用者は思い思いのソファでくつろいでいる。壁には利用者の制作物や季節の置物が飾られている。食事スペースとおやつスペースがあり、清潔でぬくもりのある共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに腰掛けて会話を楽しんでいただいたり、ご利用者持込のリクライニングソファで過ごしていただいている。おやつ時にはリビング中央にテーブルと椅子をご用意しお茶を楽しんでいる、またプレイルームにもテーブルと椅子をご用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた筆筒や椅子、お仏壇などお持ちいただいている。自室は好みに合わせて飾り付けもご自由に行っていただいている。	居室には持ち込み制限はなく、それぞれの使い慣れた好みの家具や小物、位牌や仏壇などが置かれている。また、どの部屋も家族や昔の写真が見やすくレイアウトされ温かい雰囲気を醸し出している。個別の電話も自由に使える居心地のいい個性のある部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく廊下、トイレ、浴室には手すりをつけている。ベットはご利用者の身体状況に合わせてご用意するようにしている、またわかる事、出来ることを把握し自然な言葉かけを行っている。		